

令和2年度 行政評価（施策マネジメントシート）

13 生涯学習のまちづくり

| | | | | |
|---------------|--|--|--------------|--|
| 主管課名 | 生活文化スポーツ部 文化生涯学習課 | | | |
| 主管課長名 | 佐々木 淳 | 電話番号 | 042-481-7541 | |
| 関係課名 (組織順) | 協働推進課, 男女共同参画推進課, スポーツ振興課, 環境政策課, 社会教育課, 公民館, 図書館, 郷土博物館 | | | |
| 目的 | 対象 | 市民 | | |
| | 意図 | 生涯にわたり学習し, 学んだことをまちづくりに生かす | | |
| | 施策の方向 | 市民が生涯を通じて学習に取り組み, いきいきと豊かな人生をおくことができるよう支援とともに, 学んだ成果が市民同士の交流やまちづくりに生かされるよう, 生涯学習を振興していきます。 | | |

<施策と関連するSDGsの目標（ゴール）>



1 令和元年度の振り返り — 取組実績（DO）

施策の成果向上に向けた主な取組実績

施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）

（13-1 学びのきっかけづくり）

- ・多様な学びのきっかけづくりとして生涯学習出前講座を106講座設け, 令和元年度は67回実施したほか, 市民が生涯学習の楽しさを知り, 地域との関わりを持つ機会を提供することを目的として生涯学習サークル体験事業を実施した。
- ・学びに関する情報提供及び相談について, 生涯学習情報コーナーと市民活動支援センターが拠点となり, 幅広い情報収集と提供に努めた。また, 社会教育情報誌「コラボ」を年3回発行し, 市内の小・中学校・社会教育施設に配布するなど社会教育に関する様々な事業や情報の周知を図った。
- ・図書館では, 講演会や読書会等の啓発事業の継続実施, 調布市立図書館公式キャラクター「じろ」を活用した図書館活動のPRなどを実施した。子どもたちへの取組としては, 小学生読書会やおはなし会, 小学校と連携した図書館ガイダンス等を実施した。

①横断的連携による施策の推進

- ・学びに関する情報提供において, 生涯学習情報コーナー及び市民活動支援センターの連携の下, 「ちょうふ地域コミュニティサイト（ちょみっと）」と生涯学習情報専用ページ「生涯学習情報コーナー」を連動させながら, 積極的な情報発信を図った。
- ・学びに関する相談について, 市と地域活性化包括連携協定を締結している商業施設や各公民館において, 出張相談を実施した。

■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」

- ・シニア世代に向けては, 地域活動を始めるきっかけづくりとして, 市民活動団体との協働により「地域デビュー歓迎会」をはじめとする地域デビュー事業を実施したほか, 令和元年度から全8回の連続講座「セカンドライフ応援講座」を新規に実施した。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

- ・生涯学習を始めるきっかけづくりとラグビーワールドカップ2019の機運醸成を目的として, 調布市ラグビーフットボール協会との連携により「全力で楽しむ! ラグビー観戦講座」を開催した。
- ・東京2020大会に向けて, 図書館内の常設コーナーにおいて, 大会に関する情報や資料の提供を行い, 機運醸成を図った。

②調布のまちの魅力発信

- ・専門職である調布市生涯学習まちづくり推進員が, 文化会館たづくり11階の調布市生涯学習情報コーナーにおいて, 市内で活動する各種サークル・団体情報, 講師情報等の情報提供や相談を行っている。

（13-2 学べる機会の充実）

- ・図書館では, 市民の多様な学習ニーズに応えるため, 図書や雑誌など新たに約5万2,000冊を受け入れるとともに, 年間延べ約243万点の貸出しを行ったほか, 調布市に関する新聞記事・ポスター等の地域資料のデジタル化を推進した。
- ・公民館では, 講演会・市民講座・高齢者対象事業・市民文化教室・国際理解・家庭教育・青少年対象事業・平和祈念などの多様な事業を展開した。
- ・（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団では, 「ちょうふ市民力レッジ」として, 美術, 陶芸, 音楽, 映像, 古典・伝統など幅広い分野における講座を実施する中で, 展示事業, 公演事業などとの事業連携を図りながら, 学習活動の機会の充実に努めた。
- ・市と相互友好協力協定を締結している7大学等について, 各大学等の魅力を市民へ伝え, 市民の生涯学習にもつながるよう, 市との連携事業や各大学等における市民向けの取組等に関して定期的に情報交換を実施した。

①横断的連携による施策の推進

- ・より多くの市民に広く多様な学習機会を提供するため、市民をはじめ、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団や相互友好協力協定締結大学、民間事業者等多様な主体との連携を図りながら、内容の充実に努めた。

■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」

- ・図書館がより効果的な学習活動の拠点として機能するよう、多様な資料や情報の収集、整理、提供、保存を行うとともに、だれもが読書や調査ができるよう、音訳、点訳、対面朗読、宅配などサービスの充実を図っている。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

- ・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団が実施する「ちょうふ市民力レッジ」では、東京2020大会に向け、伝統文化を次世代に継承する講座を実施した。

②調布のまちの魅力発信

- ・協定大学等との連携において、東京慈恵会医科大学との共催により、中学生のための大学一日体験入学を実施したほか、電気通信大学との共催により、「サイエンスカフェChofu」を5回開催した。また、学生による展示、ワークショップ及び発表を行う「調布市協定大学ゼミ展」を新規に開催し、協定大学全7大学等が参加した。

- ・図書館では、水木しげる氏の著作を収集・提供し、その人生や平和の思いの普及・継承に努めているほか、映画資料の収集・提供を通じ、映画のまち調布の推進を図っている。

(13-3 団体の学びの活動支援)

- ・「生涯学習サークル体験事業」や「地域デビュー歓迎会」の開催などにより、生涯学習サークルの会員増に努めるとともに、団体の活性化に向けた支援を行った。

- ・市民や生涯学習・市民活動団体が自由に生涯学習活動を行う場である「みんなの広場」について、令和元年度は、3,514団体、1万5,262人が利用し、個人学習利用728人と合わせると1万5,990人が利用した。

- ・社会教育分野では、各小・中学校のPTA(9校)が企画運営する「家庭教育セミナー」を支援し、実施校の保護者や、地域住民、他地区の保護者(計464人)に対して学びの場を提供した。

- ・図書館では、生涯学習団体と協力し、分館の集会室や地域の集会施設で市民の読書・文化活動を推進し、2月には、「樟(くすのき)まつり」を開催、幅広いテーマを取り上げた文化講演会や文芸講演会、名画鑑賞会など10の催しを実施した。

①横断的連携による施策の推進

- ・文化会館たづくりや図書館、公民館など市内の生涯学習・社会教育施設が連携しながら、市民や生涯学習・市民活動団体が活動を行うことができる場の確保を図り、「学び」の活動支援を行っている。

②調布のまちの魅力発信

- ・文化会館たづくり11階「みんなの広場」は、生涯学習・市民活動団体等による作品展示の場としても活用されており、令和元年度は、29団体が展示を行った。

(13-4 まちづくりへの学びの成果の活用)

- ・市のサークル体験事業に参加した市民が、そこで学んだ成果を発表することを通して、地域活動に参加するきっかけとともに、サークル間の交流を促進することを目的に、「生涯学習体験発表コンサート・展示会」を実施した。

- ・「地域デビュー歓迎会」では、既に地域での活動を始めている市民をゲストに招き、同年代の身近な事例を通して、地域活動において自身の技能や資格、経験等を生かすことの喜びや意義を紹介した。

- ・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団では、芸術・文化の裾野の拡大と普及を目指すために市民が講師を務める「市民講師講座」を5講座開講した。

①横断的連携による施策の推進

- ・令和元年度は、「地域デビュー事業」及び「生涯学習サークル体験事業」の連携を強化し、地域デビュー推進委員会が「生涯学習体験発表コンサート・展示会」を企画したほか、関連企画として新たに「サークルデビューしませんか?」を立ち上げ、効果的な事業展開を図った。

■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」

- ・高齢者が健康を維持しながらいきいきと豊かな人生を送ることができるよう、地域デビュー事業等の実施により、アクティブシニアが自身の技能や資格、経験等を生かして、地域活動に参加するきっかけづくりや機会の充実を図った。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

- ・東京2020大会の機運醸成に向けた取組やラグビーワールドカップ2019大会開催におけるボランティア活動などを通じて、様々な分野における学びのきっかけづくりを推進した。

②調布のまちの魅力発信

- ・市民で組織された地域デビュー推進委員会との協働により地域デビュー事業を展開しており、各事業の企画・運営等も推進委員会が担っているが、推進委員会自体が地域デビューの受け皿としても機能している。

<令和元年度における施策の成果についての総括>

- ・生涯学習出前講座をはじめ、公民館や図書館での各種講座、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団における「ちょうふ市民力レッジ」、相互友好協力協定締結大学との連携事業、市民団体や民間事業者等との連携事業などにより、広く多様な学習機会の提供を図った。

- ・シニア世代が地域活動を始めるきっかけづくりとして、「地域デビュー歓迎会」、「調布再発見バス&徒歩ツアー」、「男の料理教室」、「地域ボランティアデビューしませんか?」、「サークルデビューしませんか?」など、市民との協働により地域デビュー事業を実施したほか、新規に、「セカンドライフ応援講座」を開催するなど、アクティブシニアの地域活動への参加を促進した。

- ・協定大学との連携では、東京慈恵会医科大学の中学生のための大学一日体験入学、電気通信大学と平成29年度から実施している「サイエンスカフェChofu」の開催に加え、新たに協定大学7大学等との共催による「調布市協定大学ゼミ展」を開催し、協定大学学生による展示、ワークショップ及び発表を行った。

- ・図書館では、新たな図書、雑誌などの受入れは約5万2,000冊、聴覚資料や団体貸出を含めた貸出は年間延べ約243万点であったほか、図書館所蔵の地域資料や映画資料をデジタル化し、資料の保存・活用を推進した。

| まちづくり指標 【☆：基本計画におけるまちづくり指標、◎：総合戦略における指標】 | | 基準値 (基準年度) | 単位 | 実績値 令和元年度 | 目標値 令和4年度 |
|---|--|-----------------------|--------|--------------|--------------|
| 1 1年間に生涯学習をした人の割合【☆】 | | 38.6 (H30) | % | 40.0 | 40.0 |
| 2 社会教育施設の満足度（上段：図書館、下段：公民館）【☆】 | | 68.3 41.2 (H30) | % % | 77.9 74.8 | 75.0 50.0 |
| 3 生涯学習情報コーナーのアクセス数【☆】 | | 8万 3,014 (H29) | 件 | 6万 295 | 9万 |
| 4 学習の成果をまちづくりに生かしている市民の割合【☆】 | | 19.3 (H30) | % | 20.6 | 25.0 |
| 【備考】 | | | | | |

2 令和元年度の振返り — 評価 (CHECK)

| | | |
|------|---|---|
| 総合評価 | A | S：「顕著な取組成果が得られた。計画以上に目標を達成した。」 A：「予定した取組成果が得られた。計画どおりに目標を達成した。」 B：「一定程度の取組成果が得られた。概ね計画どおりに目標を達成した。」 C：「予定した取組成果が得られなかった。目標達成にはやや至らなかった。」 D：「取組成果が得られなかった。目標達成までには至らなかった。」 |
| 理由 | | ・「1年間に生涯学習をした人の割合」及び「社会教育施設の満足度」については、目標を達成しており、学ぶためのきっかけづくりや環境づくりにおいては、取組の成果が得られているため。 ・「学習の成果をまちづくりに生かしている市民の割合」については、目標には至っていないものの、昨年度より1.3ポイント上昇しており、目標達成に向け、一定の成果を上げているため。 |

3 施策の方向 — (ACTION)

| 区分 | 今後の取組の方向 ★：重点プロジェクトに関連する取組、●：新規の取組、○：拡充の検討を要する取組 |
|------------------------------------|--|
| 令和2年度の取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・シニア世代を主な対象とした市民との協働によるサークル体験事業や地域デビュー事業の実施、生涯学習出前講座をはじめ多様な学習機会の創出や生涯学習活動のきっかけづくりの推進 ・生涯学習情報コーナーでの情報提供のほか、「ちょうふ地域コミュニティサイト（ちょみつと）」との連携、生涯学習まちづくり推進員のアウトリーチ（出張相談）など、積極的な情報発信 ・「調布市生涯学習振興プラン」及び「調布市社会教育計画」の計画期間（ともに令和4年度まで）終了後を見据え、今後の生涯学習振興の在り方、社会教育分野との連携の方向等について課題整理・検討 ・東京2020大会に向けた取組や大会時におけるボランティア活動を通じた多様な主体との連携による生涯学習の推進 ・図書館における多様な資料や情報の収集、整理、提供、保存、活用 ・「第3次調布市子ども読書活動推進計画」に基づく家庭・地域・学校・行政が連携した子どもの読書活動の推進 |
| 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、文化会館たづくり、図書館、公民館など生涯学習・社会教育施設の休館・利用の一時停止 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、各種生涯学習事業、社会教育事業の一部中止や延期 ・図書館等における非来館型のサービスの検討 ・協定大学等の大学生が受けている影響の把握、市としての対応の検討 |
| 東京2020大会開催延期に伴う対応 | |
| 台風への対応を踏まえた災害対応 | ●災害時における協定大学等との連携の検討 |
| 令和3年度以降の計画期間内の取組（令和2年度から継続する取組を除く） | |

13 生涯学習のまちづくり

| No. | 事務事業名 | 重点プロジェクト事業 | 総合戦略 | 所管部署 | 事務事業の概要 |
|-----|--------------------|------------|------|---------|--|
| 1 | 学習活動及びまちづくりへの参加の促進 | | | 文化生涯学習課 | 市民一人一人の知識や経験を生かし、地域で活躍してもらえるよう、市民団体、大学、民間事業者等との協働により、地域デビュー歓迎会やサークル体験事業のほか、様々な生涯学習講座を実施し、各種活動への参加のきっかけづくりを行う。 |
| 2 | 市民の読書・調査活動への支援 | | | 図書館 | 市民の生涯学習・文化・生活を支えるインフラとして、暮らしに役立つ魅力ある図書館を目指してサービスを実施し充実させる。また、市民に身近な機関として機能するよう、人材育成に努める。一般書・児童書・地域資料・映画資料・電子資料・雑誌・新聞等、各世代に求められる資料・情報を選定・収集・整理・提供・保存する。貴重な地域資料等を活用するためにデジタル化を行う。市民からの多様な資料要求に応えるため、資料目録データを整備し、貸出・検索・予約等に係るシステムの利便性を高める。蔵書の新鮮さを保つため、年を経た資料は修理・製本・除籍を行い、資料的価値を考慮して保存庫等で所蔵する。音訳、点訳、宅配等により、誰もが生涯学習に取り組めるようにする。 |

13 生涯学習のまちづくり

※各事務事業の概要については、巻末の「⑦事務事業概要一覧」をご参照ください。

| No. | 事務事業名 | 重点プロジェクト事業 | 総合戦略 | 所管部署 | R1 決算事業費(千円) | 令和元年度の取組実績 | 実績評価 | 進捗状況・今後の取組の方向性 | | | | | | | 今後の取組内容 (新型コロナウイルス感染症の影響に関連する内容は冒頭に◆印を記載しています) | | | |
|-----|--------------------|------------|------|---------|--------------|---|------|----------------|-------|------|-------|-------|-------|---------|---|--------|---|--|
| | | | | | | | | R1取組実績 | | | 方向性 | | | | | | | |
| | | | | | | | | 計画前倒し | 計画どおり | 計画遅れ | 有効性改善 | 効率性改善 | 財政面改善 | 参加と協働改善 | 改善余地なし | | | |
| 1 | 学習活動及びまちづくりへの参加の促進 | | | 文化生涯学習課 | 500 | 地域デビュー事業は、歓迎会を6月に実施した後、分科会として「男の料理教室」、「調べ再発見 バス&徒歩ツアーア」、「地域ボランティアデビューしませんか?」、「サークルデビューしませんか?」の4事業全6回を開催した。新たな取組として実施した「サークルデビューしませんか?」では、活動内容の紹介等を通じて、参加者のサークル入会に結びつけることができた。また、「サークル体験inみんなの広場」を全4回実施した（参加者数：延べ42人）。団体との連携により実施した生涯学習サークル体験事業は、55人の申込みがあり、16人の入会に結びついた。また、これまでのサークル体験発表会については、地域デビュー事業と連携を図り、「生涯学習サークル合同発表会」として実施し、13団体が体験発表コンサートを実施（参加者数：326人）し、4団体が体験発表展示会を実施した。 | ○ | | ● | | ● | ● | | ● | | ● | | 令和元年度の新たな試みとして、地域デビュー事業では「サークルデビューしませんか?」の開催、地域デビュー事業とサークル体験事業の連携事業として「生涯学習サークル合同発表会」を実施したことで参加者数が増加し、各サークルの入会に結びつけることができたところであるが、今後も地域デビュー事業とサークル体験事業の連携を継続していくためには、「それぞの役割」や「発表会の目的についての認識」等について課題があるため、今後の連携の在り方を検討していく必要がある。 ◆新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、これまで実施してきた事業を屋外スペースで実施する等、新たな手法を検討していく必要がある。また、市ホームページや調べ市生涯学習情報コーナーで発信する情報の内容を充実させ、生涯学習の普及啓発を行っていく必要がある。 |
| 2 | 市民の読書・調査活動への支援 | | | 図書館 | 347,475 | 市民に身近な施設として、中央図書館と10の分館を運営し、市民の多様な学習ニーズに応えるため、図書・雑誌・視聴覚資料を新たに約5万2000点を受け入れつつ、年間延べ約243万点の貸出を行った。非利用しやすく安全な書架となるよう、ボランティアの協力を得ながら書架の維持・管理を行った。多様な資料要求に的確に応えるため、各種データを整備し、利便性の向上を図った。 職員・嘱託員の人材育成を図るため、定期的な職場内研修を実施するほか、外部研修にも参加した。 高架下資料保存庫の書架の一部が返却されたことを受け、当該スペースを有効活用するための調整を行った。 電子図書館サービスの調査を行った。 1才6ヶ月児検診でブックスタートパックを2200部配布し、乳幼児がいる家庭での読み聞かせを推進した。 マルチメディアDAISY図書は一般に流通しているものが少ないため18冊を新たに作成した。 ※「マルチメディアDAISY図書」とは、文字情報を理解することがむずかしい方をサポートする電子図書です。 | ○ | | ● | | ● | ● | | | | | 今後も市民の生涯学習・文化活動・日常生活に欠かせないインフラとして、市民に身近な図書館づくりに努めつつ、生活を支え、暮らしに役立つ魅力的な図書館であり続けるために、各種図書館サービスを実施・充実させる。また、非来館型のサービスについても引き続き検討していく。 市民からの多様化する資料要求に的確に応えるため、図書・雑誌・地域資料・行政資料・映画資料・電子資料・視聴覚資料などの資料を収集・整理・提供・保存するほか、図書館相互貸借制度などを通じて、国・都道府県・市区町村立及び大学図書館と緊密に連携し、市民への資料提供を行う。 高架下資料保存庫の図書収容スペースに不足が生じているため、引き続き、保管場所の確保について庁内関連部署と協議を行い、貴重な市民の共有財産を適切に保存・提供できるようにしていく。 利用者のニーズに応えられるよう創意工夫を凝らし、魅力ある図書館を目指す。 | |
| | | | | | | | | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 0 | 計 | | |
| | | | | | | | | 0.0 | 100.0 | 0.0 | 100.0 | 100.0 | 0.0 | 50.0 | 0.0 | 割合 (%) | | |

当該施策に体系付けられている全ての事務事業については、巻末に掲載している参考資料「⑥事務事業一覧（施策体系順）」をご参照ください。